

## 沖縄地区税関開庁式に来賓出席しました

2024年10月29日、那覇市おもろまち在の那覇第二地方合同庁舎三号館において執り行われた沖縄地区税関開庁式に日本関税協会沖縄支部もご案内を受け、同記念式典において来賓祝辞を述べる機会をいただきました。

式典は、庄子真憲沖縄地区税関長の式辞に続き、高村泰夫関税局長による祝辞の後、来賓を代表して山城正保沖縄支部長祝辞の式次第で執り行われました。

山城支部長は、式典当日海外出張のため不在でしたので、名嘉重則幹事（那覇青果物卸商事業協同組合 理事長）に出席を依頼し、支部長祝辞を代読していただきました。

支部長祝辞において、『日本関税協会沖縄支部は、税関行政の円滑かつ適正な運営へ寄与し、貿易の振興を図っており、今日まで沖縄地区税関と共に沖縄県の発展に力を注いでまいりましたが、沖縄地区税関の本関機能が集約し新たな一步を踏み出された今、これまで以上に連携を図り、強固な協力体制の下、より良い沖縄を共に築いていきます。』と力強い挨拶を行いました。

式典終了後、来賓一同及び税関幹部との写真撮影が行われ、その後、庁舎見学会へと移り、開庁式を滞りなく終えました。

なお、当日はテレビ局4社、新聞社4社の計8社と多くのマスコミが取材に駆け付け、当日夕方のニュース及び翌日の地元紙に式典等の模様が大きく取り上げられました。

【支部長祝辞を述べる名嘉幹事】



【庄子真憲沖縄地区税関長式辞】



【計8社のマスコミによる取材模様】



【高村泰夫関税局長祝辞】



【来賓一同及び税関幹部との写真撮影】



【本関庁舎見学の様様、その他】



※開庁式当日、来賓及びマスコミ各社に配布された資料、「沖縄地区税関本関庁舎の特徴」、「沖縄地区税関本関庁舎の変遷」を参考まで添付します。👉

## 沖縄地区税関本関庁舎の特徴

### 職員の意見を反映

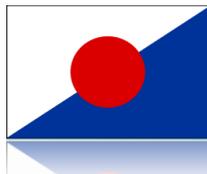
- 若手職員に意見を募集し、デスクやチェアの色を決定
- 更衣室ロッカー及び個人端末用のロッカーの鍵は、物理キーが不要なダイヤル式を採用
- 女性更衣室に休憩できるスペースを確保

### 働きやすく、他部門とのつながりを感じられる環境の整備

- 職員の顔が見え、コミュニケーションが取りやすいようにゾーニングと什器のレイアウトを決定
- 新規購入のチェアにはハンガー・ヘッドレスト機能付きを整備
- シフト勤務の部門がある部には一部にフリーアドレスを導入
  - ・ 机上に端末を設置しないことで広い作業スペースを確保
  - ・ 自由に移動が可能のため作業内容に合わせた席の選択が可能
  - ・ 部門の枠を超えたコミュニケーションの活性化
- WEB会議・研修ブースやWi-Fi環境の整備

### その他の設備

- 広報展示室（子供から大人まで楽しみながら税関の業務を知っていただけるようストーリーにそった業務説明を作成）



#### 税関旗

青い（紺色）ところが海と空、白いところが陸地、その接点に税関（赤い丸）があることを意味しています。この税関旗は、1892年（明治25年）8月3日に制定されました。

## 『沖縄地区税関本関庁舎の変遷』

昭和47年5月15日、沖縄の本土復帰に伴い沖縄地区税関が発足し、同時に税関庁舎の殆どが琉球政府から大蔵省に引き継がれました。

発足当時は、那覇市通堂町の本関本庁舎に総務部門および監視部門が、那覇市前島の泊<sup>とまり</sup>分庁舎に通関部門が入居しており、発足時から本関機能が2拠点化していました。



沖縄地区税関発足時の  
本関本庁舎



那覇港湾合同庁舎【監視部・  
業務部・調査部】（S54.8～）

その後、昭和54年8月に、那覇市港町の那覇港湾合同庁舎の完成に伴い、本関本庁舎に入居していた監視部門と、泊分庁舎に入居していた通関部門が同合同庁舎に移転しました。平成29年1月には、本関庁舎の老朽化及び建物の耐震強度に問題があること、本関機能の集約化を盛り込んだ那覇第2地方合同庁舎3号館の建設計画が策定されたことから、同3号館完成までの間、那覇市壺川の壺川ビルに総務部門が仮移転したところ、令和6年10月15日には、ここ那覇第2地方合同庁舎3号館に4つの部（総務部、監視部、業務部、調査部）が集約移転し、沖縄地区税関の本関機能が、発足以来、初めて一つになりました。